福祉の未来を拓く

社大福祉フォーラム2025

第63回日本社会事業大学社会福祉研究大会

《大会テーマ》

灯し、紡ぐソーシャルワーク ～デジタル時代における福祉をデザインする～

《 日 程 》

2025年6月21日（土）・22日（日）

【1日目】6月21日(土)

開催場所…講堂(対面・オンライン)

時間	内容	時間
9:30	●受付 午前(講堂) 9:30～	9:30
10:00	●開会式 ●プログラム説明	10:00
10:10	●本部企画 【基調講演Ⅰ】AI・DX時代における福祉とテクノロジー利用 ～最新の支援技術とコミュニケーション支援から考える～ 講演者：巖淵（いわぶち） 守（まもる） 氏 早稲田大学人間科学学術院 教授	10:10
11:40	●木田賞贈呈式 ●学生研究奨励賞贈呈式 ●受賞者スピーチ	11:30 同窓会企画(A101) 11:30～16:00 11:40
12:20	休 憩	12:20
12:30	●学内学会総会	12:30
12:50	休 憩	12:50
13:30	●本部企画 【基調講演Ⅱ】誰も取り残さない学びの場へ：マインクラフトとデジタルものづくりの可能性 講演者：土井（どい） 隆（たかし） 氏 Minecraftカップ ディレクター 特定非営利活動法人デジタルものづくり協議会代表理事	13:30
15:00		15:00
		16:00

【2日目】6月22日(日)

開催場所…各教室(対面)

時間	内容	時間
9:30	●受付 （A棟ロビー） 9:30～	9:30
10:00	●分科会 ＜A201＞ 1 2025年度台湾スタディツアー：台湾の貧困、地域支援団体から得た学びと日本との相違点に関する報告 2 若者支援の歴史と居場所論：ユースワークを中心に据えた教育福祉的視点から 3 児童養護施設における小規模ケアの支援体制に関する文献レビュー －コードマトリックス分析による検討－ 4 変革期にあるドイツのケア教育 －大学における Pflegefachmann養成の現状と課題－	10:00
	●自主企画分科会 1 清瀬市の農的空間を活用した多世代交流の取り組み（ヤギのソーシャルワーク）＜A101＞ 2 災害における認知症の人と介護家族への包括的支援について ～能登半島地震における支援から考える～ ＜A202＞ 3 ソーシャルワーク実践と多職種連携 ＜A301＞ 4 ケアの道を進め！介護 × 学び すごろく ＜A401＞ 5 ①若者の主観的健康観と生活習慣の関連に関する研究 ＜A402＞ ②大学生の SNSの利用状況に関する調査－SNSでの悩みの解決に着目して－ ③本学の学部生の生活困窮者に対する意識の変化について	
12:00	休 憩	12:00
13:00	●自主企画分科会 6 職場のメンタルヘルス ～産業ソーシャルワークに関するネットワークの創設にむけて～ ＜A301＞ 7 自然との共生と多文化共生のためのソーシャルワーク ～ハワイにおける先住民等の地域・民族固有の知と日系移民の経験から学ぶ～（スタディツアー報告） ＜A302＞ 8 ピアサポートの意義と効果を考える －依存症回復支援に学ぶ－ ＜A401＞ 9 高齢者ソーシャルワークについて語ろう ～下垣ゼミホームカミングデイ～ ＜B101＞ 10 現任実践者の学びと発展Ⅰ ～専門職大学院修了後の実践と協働～ ＜C301＞ 11 盲ろう者福祉の現状と未来への展望 ＜C302＞	13:00
15:00		15:00

※ 本部企画 分科会 自主企画分科会

1日目　6月21日（土）

開会式　　10：00 ～ 10：10【講堂・オンライン】

（手話通訳・パソコン通訳あり）

司　会：菱沼　幹男（社会福祉学部教授）

・開会のあいさつ　　日本社会事業大学社会福祉学会　会長　横山　彰

・プログラム説明

基調講演Ⅰ　　10：10 ～ 11：40【講堂・オンライン】

（手話通訳・パソコン通訳あり）

AI・DX 時代における福祉とテクノロジー利用
～最新の支援技術とコミュニケーション支援から考える～

講演者　巖淵（いわぶち）　守（まもる）　氏

早稲田大学人間科学学術院　教授

＜プロフィール＞

早稲田大学人間科学学術院 教授。広島大学大学院教育学研究科助教授、ワシントン大学客員研究員を歴任後、2009 年から東京大学先端科学技術研究センター准教授。2018 年より現職。専門は「生活支援工学」。障害のある人をはじめ、社会生活におけるバリア（困難）に直面する人々の多様なコミュニケーションや暮らし、学び方・働き方を支援するテクノロジー利用に関する研究開発を行う。

木田賞・学生研究奨励賞　贈呈式　　11：40 ～ 12：20【講堂・オンライン】

（手話通訳・パソコン通訳あり）

司　会：菱沼　幹男　（社会福祉学部教授）

【木田賞】

（実践奨励賞）

野田（のだ）　大介（だいすけ）　氏　　（社会福祉法人みちのく大寿会理事・特別養護老人ホーム久慈平荘副施設長 / 専門職大学院 3 期 2007 年 3 月修了）

【学生研究奨励賞】

保坂（ほさか）　真由美（まゆみ）　さん　（2025 年 3 月　社会福祉学部 福祉援助学科　卒業）

井上（いのうえ）　夏美（なつみ）　さん　（2025 年 3 月　社会福祉学部 福祉計画学科　卒業）

金親（かねおや）　萌（もえ）　さん　（2025 年 3 月　社会福祉学部 福祉援助学科　卒業）

中澤（なかざわ）　悠里（ゆり）　さん　（2025 年 3 月　社会福祉学部 福祉援助学科　卒業）

高木（たかぎ）　久瑠実（くるみ）　さん　（2025 年 3 月　社会福祉学部 福祉援助学科　卒業）

池田（いけだ）　楓香（ふうか）　さん　（2025 年 3 月　社会福祉学部 福祉計画学科　卒業）

菅野（かんの）　佳輝（よしてる）　さん　（2025 年 3 月　専門職大学院　修了）

学内学会総会　12：30～12：50【講堂・オンライン】

司　会：菱沼　幹男（社会福祉学部教授）

（手話通訳・パソコン通訳あり）

基調講演Ⅱ　13：30～15：00【講堂・オンライン】

（手話通訳・パソコン通訳あり）

誰も取り残さない学びの場へ：マインクラフトとデジタルものづくりの可能性

講演者　土井（どい）　隆（たかし）　氏

Minecraft カップ　ディレクター
特定非営利活動法人デジタルものづくり協議会代表理事

＜プロフィール＞
　慶應義塾大学卒業後、楽天で通販コンサルティングを行い、その後ルクサにて EC 事業に従事。2012 年に株式会社コアースを設立し、地域活性化を支援。2015 年、鹿児島県長島町に移住し、地域特産品のインターネット販売や地方創生に取り組む。Minecraft カップには、2019 年の第 1 回からディレクターとして主導し、全国規模の大会へと拡大。教育版マインクラフトを活用し、子どもたちがプログラミングを学びながら地域課題に取り組む場を提供。2023 年の第 5 回大会には 10,000 名以上が参加し、デジタル教育と地域創生の融合を推進。さらに、嘉悦大学准教授・東京大学客員研究員としてデジタル技術を活用した地域づくりや教育モデルの研究に従事している。

日本社会事業大学　同窓会　同窓会企画　11：30～16：00【A101】

社大生あつまれ！
あなたのキャリアプラン実現のための 福祉現場で活躍する OB・OG との交流会

　社大生のみなさんが、これからどのような福祉分野の職場で仕事をしていきたいのか、、、
キャリアプラン作成の手掛かりにしてください。「就活」や「相談援助実習先」の選択にもきっと役立ちます。
この交流会は、日本社会事業大学×社会福祉学会とのコラボ企画です。

参加予定法人
（社）東京聖労院、（社）まりも会、（社）東京都手をつなぐ育成会、（社）滝乃川学園、（社）大田幸陽会、日本赤十字社、（社）ル･プリ、（社）白十字会、（社）聖隷福祉事業団、（社）武蔵野、（社）常盤会、（社）旭児童ホーム、（社）睦月会、（社）唐池学園、ビーサイドユー（株）
【北海道支部】（社）栄和会
【栃木県支部】（社）すぎのこ会、（社）同愛会、（社）パステル
【千葉県支部】（社）オリーブの樹、（株）ドットライン

2日目　6月22日（日）

＜分科会＞　10：00～12：00【A201】

コーディネーター：有村　大士（社会福祉学部教授）

2025年度台湾スタディツアー：台湾の貧困、地域支援団体から得た学びと日本との相違点に関する報告

後藤　華歩　　（社会福祉学部２年）
木戸口　明日菜（社会福祉学部３年）
大橋　未遥　　（社会福祉学部２年）

中国語の講師、橋本先生主催で３月に行われた2025年度台湾スタディツアーでは、台北で９箇所の地域・貧困・子ども支援団体に訪問し、各団体のソーシャルワーカーのお話や団体の活動内容などを聞き、意見交換を行いました。また、台湾訪問前に日本の貧困支援現場で炊き出しのボランティア等に参加し、日本の地域支援活動や社会的課題について学びました。今回の発表では、各団体の取り組みや日本の共通点、相違点について着目しながら報告します。

若者支援の歴史と居場所論：ユースワークを中心に据えた教育福祉的視点から

星　海月　（大学院博士前期課程35期2025年修了）

社会教育的アプローチとしてのユースワークを中心に、若者支援の歴史的変遷を欧州と日本の動向に沿って検討した。具体的には、欧州におけるユースサービスの成立から、ユースワークの発展、多様化、制度化に至る過程を整理し、また日本における若者支援の歴史を、戦後から現代にかけての政策変遷を通じて追った。さらに、若者が居場所とするための構成要素を、サードプレイス論やロビーワーク研究を参照しながら先行研究を整理した。

コーディネーター：新藤　健太（社会福祉学部准教授）

児童養護施設における小規模ケアの支援体制に関する文献レビュー
－コードマトリックス分析による検討－

保坂　沙弥　（大学院博士後期課程１年/大学院博士前期課程35期2025年修了/社会福祉学部63期2023年卒業）

本研究は、児童養護施設における小規模ケアの支援体制の現状と課題に着目し、コード・マトリックス分析による文献レビューを行ったものである。『季刊児童養護』など幅広い関連文献から支援体制に関する記述を抽出し、段階的にコード化・カテゴリー化を行った。その結果を踏まえて、主な論点や課題を体系的に整理した。

変革期にあるドイツのケア教育　－大学におけるPflegefachmann養成の現状と課題－

高木　剛　（静岡県立大学短期大学部/大学院博士前期課程14期2004年修了）

従来、ドイツにおいて介護･看護（以下、ケアという。）分野の専門職養成（教育）は職業専門学校を中心に行われてきた。
近年、当該分野の専門職養成制度改革にあわせて、高度な専門的知識・技能などを有する人材を社会に輩出すべく大学での養成（教育）が進められているため、その現状と課題について文献・資料等をもとに報告する。

＜自主企画分科会＞　1　10：00～12：00【A101】

清瀬市の農的空間を活用した多世代交流の取り組み（ヤギのソーシャルワーク）

永嶋　昌樹　（社会福祉学部准教授）
永嶋ゼミ所属学生、その他（農福連携活動に参加している学生など）
協力：多世代交流同好会、ヤギ部

社大竹丘校地の空閑地を開墾し、学内の中庭にレイズドベッドを設置するなど、これまで永嶋ゼミでは農作業や園芸活動を通じて、地域の人々と学生とが交流する機会を作ってきました。これは「社大の敷地内だけではなく、清瀬市をはじめとする近隣地域すべてがキャンパスである」との考えから、福祉実践と学びの場を広げていく試みです。2023年度から現在に至るまでの活動を報告するとともに、地域で活躍されている農業・園芸等の実務家の方がたをゲストスピーカーとしてお招きし、自然環境・農地や動物（ヤギ）を介してさまざまな属性（年齢・性別・国籍・職業etc.）の人たちが交流することによる地域づくりと、将来の共生社会のあり方を模索します。

おこげちゃん・おこめちゃん

＜自主企画分科会＞　2　　10：00 ～ 12：00【A202】

災害における認知症の人と介護家族への包括的支援について ～能登半島地震における支援から考える～

入部　寛　（社会福祉学部教授 / 学長室 多心型福祉連携センター センター長）
下垣　光　（社会福祉学部教授）
北川　進　（専門職大学院講師）
橋本　玲子（金沢医科大学精神神経科学助教 / 臨床心理士）

地震などの様々な災害において、認知症の人にとって多くの課題に直面することがある。福祉・医療・保健などの連携が効果的に展開することだけでなく、災害前からの地域のつながりや復興における支援などの継続的な課題もあり、包括的支援が求められる。多心型福祉連携センターは、これまで多様な主体が相互に補完し連携し、福祉課題の解決を図る取り組みのあり方を研究してきた。

金沢医科大学精神神経科学教室から能登半島地震における認知症の人と介護家族の支援の状況の報告をいただき、東日本大震災における災害支援と向き合ってきた実践と意見交換もより、包括的支援の展開について深めていくことを目的として分科会をおこなう。

＜自主企画分科会＞　3　　10：00 ～ 12：00【A301】

ソーシャルワーク実践と多職種連携

増田　剛士　（世田谷保健所精神保健相談員 / 専門職大学院 19 期 2024 年修了）
田村　三太　（一般社団法人 MHC リサーチ＆コンサルティング代表理事 / 専門職大学院 20 期 2024 年修了）
猿渡　英代子（合同会社ビーウィズ代表 / 専門職大学院 20 期 2024 年修了）
西村　貴美子（社会福祉法人さくら会居宅介護支援専門員 / 専門職大学院 20 期 2024 年修了）

私たちは専門職大学院の鶴岡ゼミ（通称：つるゼミ）で 1 年間共に学んだ仲間たちです。修了後もそれぞれの実践で生じる課題についてゼミ生同士で相談し、意見交換することが私たちの拠り所になっています。職種や専門性が異なるもののゆるやかに繋がり続けていることから「まさに多職種連携だよね」という一言をきっかけに、本分科会を企画しました。

今回は、精神保健福祉士、居宅介護支援専門員計 4 名の登壇者から、実践報告とソーシャルワーク実践における多職種連携についてお話しします。意見交換では参加者の皆さんと一緒に「ソーシャルワーク実践と多職種連携」について考える場にしたいと考えています。

＜自主企画分科会＞　4　　10：00 ～ 12：00【A401】

ケアの道を進め！介護 × 学び すごろく

石田　和美　（社会福祉学部 63 期 2023 年卒業）
長谷部　裕美（大学院博士前期課程 2 年 / 社会福祉学部 58 期 2018 年卒業）
五明　響　（大学院博士前期課程 2 年 / 社会福祉学部 64 期 2024 年卒業）
春日　聖　（社会福祉学部 58 期 2018 年卒業）
上村　愛美　（社会福祉学部 58 期 2018 年卒業）

高齢者体験キットを用いて、すごろくをしながら楽しく介護を学ぶ企画です。上手なトロミのつけ方、安全な着脱介護の方法、自助具の使い方など、日常生活のさまざまな体験をしていただきます。

これから介護現場に出る学生の皆さんも、既に現場でご活躍されている皆さんも、ぜひお越しください。ご来場いただいた順にご案内いたしますので、途中参加・途中退室も大歓迎です！！

＜自主企画分科会＞　5　　10：00 ～ 12：00【A402】

①若者の主観的健康観と生活習慣の関連に関する研究
②大学生の SNS の利用状況に関する調査－ SNS での悩みの解決に着目して－
③本学の学部生の生活困窮者に対する意識の変化について

吉田　悠登　（大学院博士前期課程 2 年 / 社会福祉学部 64 期 2024 年卒業）
大野　茉由　（大学院博士前期課程 2 年 / 社会福祉学部 64 期 2024 年卒業）
小針　恵子　（大学院博士前期課程 2 年）
五明　響　（大学院博士前期課程 2 年 / 社会福祉学部 64 期 2024 年卒業）
盛　浩翔　（大学院博士前期課程 2 年 / 社会福祉学部 64 期 2024 年卒業）
程　芳秀　（大学院博士前期課程 2 年）
長谷部　裕美（大学院博士前期課程 2 年 / 社会福祉学部 58 期 2018 年卒業）
畑野　理子　（大学院博士前期課程 2 年 / 社会福祉学部 64 期 2024 年卒業）
林田　正直　（大学院博士前期課程 2 年）
室橋　夏海　（大学院博士前期課程 2 年 / 社会福祉学部 64 期 2024 年卒業）

3 グループでテーマを設定し、それぞれのテーマについて学部生への調査を行いました。その調査結果に基づき考察し、主観的健康観、SNS の利用状況、生活困窮者への意識変化などに関して学部生の現状、課題を明らかにしました。発表後には、参加者とのディスカッションを通して、調査結果をより深く理解し、今後の学びや支援のあり方を主体的に考える機会としたいと考えています。

2日目　6月22日（日）

＜自主企画分科会＞　6　　13：00～15：00【A301】

職場のメンタルヘルス ～産業ソーシャルワークに関するネットワークの創設にむけて～

【話題提供】

大櫛　重光　（専門職大学院 兼任講師（非常勤）/ 研究科 1991 年卒業）
田村　三太　（MHC リサーチ＆コンサルティング代表理事 / 専門職大学院 20 期 2024 年修了）
小川　裕子　（駒澤大学文学部社会学科 社会福祉学専攻助手 / 本学研究大学院研究生）

【助言者】

鶴岡　浩樹　（専門職大学院 研究科長・教授）

昨年度に引き続き、職場のメンタルヘルスについて「ソーシャルワーク」の視点からも検討を行い、産業ソーシャルワーク（Occupational Social Work)」の可能性に関する自主企画分科会を実施します。

話題提供として、①担当講師である大櫛、②専門職大学院を修了し、この分野で現場実践をされている田村氏、が昨年に引き続き登壇し、今回は、③労働施策としての「職場のメンタルヘルス」と福祉施策としての「障害者雇用」の課題について取り組まれている駒澤大学の小川先生にも登壇して頂きます。

助言者には、「産業医」でもある本学専門職大学院研究科長の鶴岡教授に参加して頂きます。この分野における社大でのネットワークづくりも意識しています。

＜自主企画分科会＞　7　（スタディツアー報告）　　13：00～15：00【A302】

自然との共生と多文化共生のためのソーシャルワーク
～ハワイにおける先住民等の地域・民族固有の知と日系移民の経験から学ぶ～

五明　響　　（大学院博士前期課程 2 年 / 社会福祉学部 64 期 2024 年卒業）
吉田　あさひ（社会福祉学部 65 期 2025 年卒業）
今野　史菜　（社会福祉学部 4 年）
岩城　晴華　（社会福祉学部 4 年）
大浦　理子　（社会福祉学部 3 年）
長島　京佳　（社会福祉学部 3 年）
横内　爽　　（社会福祉学部 3 年）
小坂　紫於理（社会福祉学部 2 年）
髙橋　杏美　（社会福祉学部 2 年）

ヴィラーグ　ヴィクトル（社会福祉学部准教授）

ハワイスタディーツアーでは、ハワイアンの歴史や文化について学び、ハワイ太平洋大学の学生との交流を通じて現地の若者の価値観に触れた。また、医療現場やホームレス支援の現場を訪れて感じたハワイが抱えている課題と、ハワイでのソーシャルワークのあり方についての学びから、日本のソーシャルワークとの違いについても発表する。

＜自主企画分科会＞　8　　13：00～15：00【A401】

ピアサポートの意義と効果を考える ―依存症回復支援に学ぶ―

曽根　直樹　（社会事業研究所客員教授）
壁田　英一　（専門職大学院 18 期 2022 年度修了）
鹿山　雄志　（専門職大学院 18 期 2022 年度修了）
鹿野　健治　（ステラポラリスピアスタッフ）
黒滝　聡　　（ステラポラリスメンバー）

ピアサポートの重要性が強調されるようになったが、その意義と効果について、さらに理解を深める必要がある。依存症当事者による NPO 法人ステラポラリスの回復支援の実践及び調査研究の報告から、ピアサポートとは何かについて、専門職大学院修了生たちとの対話を通じて理解を深める機会とする。

＜自主企画分科会＞　9　　13：00～15：00【B101】

高齢者ソーシャルワークについて語ろう ～下垣ゼミホームカミングデイ～

下垣　光（社会福祉学部教授）

1996 年から開始した下垣ゼミのホームカミングデイです。さまざまな領域で活躍している下垣ゼミ卒業生が集い、下垣とともに高齢者ソーシャルワークについて語り合い、高齢者にとって前向きに生活していけるための社会を共に考えることをおこないます。また下垣は、本学着任以前から一貫して行ってきた認知症のある人への支援に関する研究や支援活動を総括について報告します。

＜自主企画分科会＞　10　　13：00～15：00【C301】

現任実践者の学びと発展Ⅰ ～専門職大学院修了後の実践と協働～

【報告者】

小河　泰宏　（東京都町田児童相談所 / 専門職大学院 12 期 2017 年修了）
日高　陽子　（明星大学学生サポートセンター（大学職員）/ 専門職大学院 19 期 2023 年修了）
大河内　洋子（東京都町田児童相談所 / 専門職大学院 19 期 2024 年修了）
佐々木　旭美（任意団体いそのさんち / 専門職大学院 19 期 2024 年修了）
弓田　香織　（長野県教育委員会 / 専門職大学院 20 期 2024 年修了）

【助言者】

木戸　宜子　（専門職大学院教授）

【企画・進行】

須江　泰子　（専門職大学院准教授）

【企画趣旨】

本学専門職大学院は昨年 20 周年を迎え、900 名を超える修了生を輩出しました。カリキュラム方針として、実践を省察して言語化し、知識や理論と結び付けて次なる実践に繋げる「経験学習モデル」を中核に置いていることは特徴の一つです。高い志を持つ様々な領域の福祉実践家が集い、日々ディスカッションして切磋琢磨していきます。修了後は本学での学びや出会いをきっかけに、仕事に還元し、自己研鑽でネットワークを広げ、ソーシャルアクションに繋げています。

本企画では 2 つの目標を掲げました。一つは、複雑化する社会課題に取り組む現任実践者は、大学院教育で何を体験し、何を得ているのか。本学での学びを言語化し、当事者の立場から紹介することです。もう一つは、修了後の展開と次なる実践を報告し、会場にご参加の皆さんも交えて更に発展させていくことです。学生支援に関わる大学職員、スクールソーシャルワーカー、児童相談所児童福祉司、社会福祉士、精神保健福祉士など、近年の修了生が登壇し、修了後の実践を報告します。今回は子ども・若者支援に携わる方、修了生を中心としたピア・スーパービジョン活動を運営されている方が発表します。会場の皆さんとのディスカッションやご縁つなぎの時間も予定しています。社会人の学びと発展について皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。専門職大学院の入学を考えている方や学部生にも是非ご参加いただき、未来の自分の姿を探していただけたら幸いです。

＜自主企画分科会＞　11　　13：00～15：00【C302】

盲ろう者福祉の現状と未来への展望

【登壇者】福島　智　（東京大学先端科学技術研究センター特任教授）
　　　　　前田　晃秀（社会福祉学部非常勤講師 / 東京都盲ろう者支援センター長）
【司　会】二神　麗子（社会福祉学部講師）

視覚と聴覚の両方に障害を持つ「盲ろう者」。その当事者であり障害学研究を牽引する福島智氏と盲ろう者支援の実践と研究に取り組む前田晃秀氏を招き、盲ろう者福祉の現状と課題、そして未来について、当事者と支援者それぞれの立場での基調講演を行う。クロストークと質疑応答の時間を設け、参加者との双方向的な学びを目指すとともに、盲ろうに関する基礎的理解から最新の動向までを共有し、福祉実践や政策提言への示唆を得ることを目指す。

ご 案 内

① 参加資格：どなたでも参加できます。対面での参加者は、必ず会場で受付をしてください。
オンライン併用企画にオンラインで参加する場合は、下記の参加申込フォームよりお申込みください。
＊オンライン参加は、インターネット接続が必要です。

② 参加費等：無　料

③ 手話通訳：1 日目の開会式、基調講演Ⅰ、基調講演Ⅱには手話通訳が付きます。

④ 昼食等：6 月 21 日 12:00 ～ 13:30 は、食堂が利用できます。

⑤ 駐車スペースがありませんので、ご来場には公共交通機関をご利用ください。
※内容・スケジュールは変更になる場合がございます。ご了承ください。

⑥ 障がい等のため、特別な配慮が必要な方は、あらかじめお申し出ください。

【オンライン参加】

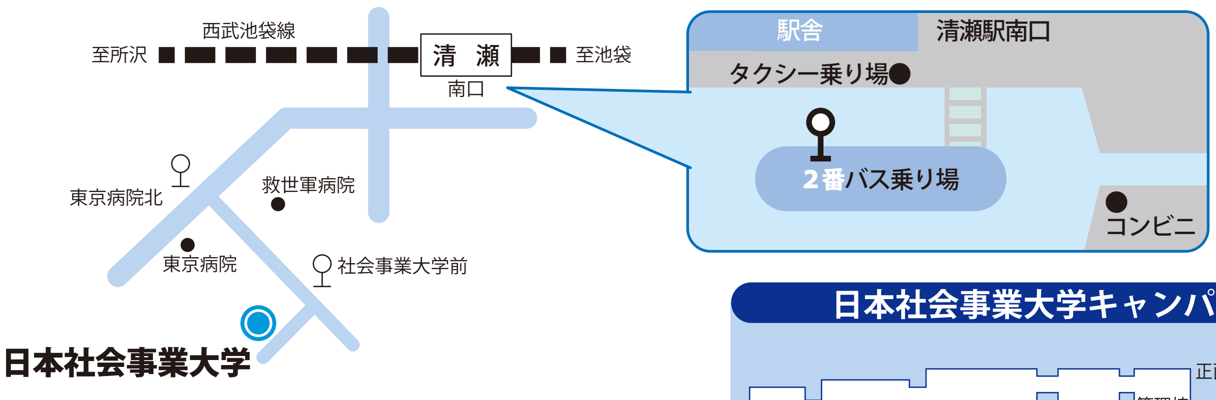
オンラインでの参加は、6 月 21 日の本部企画が対象となります。
オンライン併用企画にオンラインで参加される場合は、事前に下記より申込いただき、
Zoom 情報や資料を取得ください。

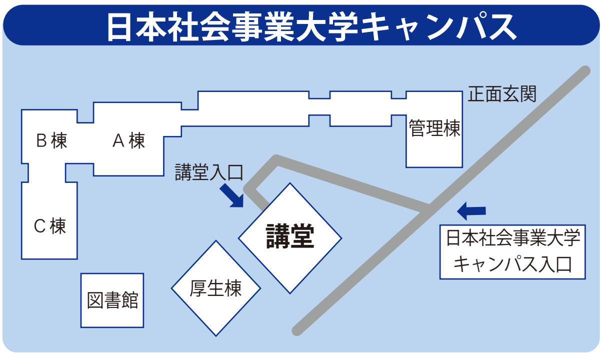
◆参加申込フォーム
https://fs220.xbit.jp/b646/form7/

【対面参加】

会　場：本学清瀬キャンパス　　〒204-8555　東京都清瀬市竹丘 3-1-30

交通機関のご案内





交通機関

西武池袋線「清瀬駅」下車（池袋より準急で 21 分）
南口ターミナル２番より西武バス８分
●「下里団地」行き又は「花小金井」行き「社会事業大学前」下車、徒歩1分
●「久米川」行き「東京病院北」下車、徒歩５分

社もむしくん

■主　　　催　学校法人日本社会事業大学　／　日本社会事業大学社会福祉学会
■お問い合わせ　〒 204-8555　東京都清瀬市竹丘３－１－３０
学校法人日本社会事業大学　社会事業研究所（社会福祉学会事務局）
Tel　０４２－４９６－３０５０　　Email　swri@jcsw.ac.jp